

# 1時間を通して活用する①

## 本場面におけるポイント

### ●自分の夢について考える

高校生の投書に対して「自分の夢をもつにはどうしたらよいか」という返事を書くことが、実は自分の夢や生き方について考えることにつながる。

### ●自分の在るべき姿やこれからの人生を考える

詩の中にある「私はどう在りたいのか」「在るべき自分の姿なのか」というところで、自分自身を振り返り、自らの価値観を見つめ、自己の生き方を考える。

### ●これからの自分が、どう前向きに人生を歩んでいくかを言葉で表現する

主題に関わる絵や写真、言葉などを全員で見たり、読んだりして、問題意識を高める。



### ●自分の人生を前向きに生きようとする態度を育てる事例(3年)

1 主題名 自分の人生を切り拓く〔内容項目1-(4)〕

2 中心的な資料 中学校用P.30～31「自分の人生は自分の手で切り拓く」  
中学校用P.16～17「この人生の主人公」

3 ねらい

中学校用P.16～17の詩を読み、理想の実現を目指して自己の人生を前向きに切り拓いていこうとする実践意欲を育む。

4 「心のノート」を生かす工夫

◇中学校用P.30の投書を読んで感想を述べ合い、夢をもつにはどうしたらよいか考えさせる。

◇中学校用P.16～17の詩をもとに、自分自身の人生について考えたことを詩にして、思いや考えをまとめる。

5 展開の概要

学習活動の流れと主な発問など	留意点・「心のノート」の生かし方
1 中学校用P.30にある「高校生の投書」を読んで感想を述べ合い、中学校用P.31に高校生への返事を書く。	◇P.30の投書の感想を小グループで述べ合い、P.31に記入させ、投書の返事を自分へのメッセージにする。
2 中学校用P.16～17にある「この人生の主人公」を読み、話し合う。 ○どうして心の声が聞こえてくるのだろう。 ○どうしたら胸を張って生きていけるのだろうか。	◇P.16～17の詩を読んで、流されたり投げやりになったりする自分を乗り越えるように、自分の在り方や自分の人生について考えさせる。
3 これまでの自分の人生を振り返り、自分の人生をどう生きていきたいか「この人生の主人公」をもとに詩に表わす。	◇P.16～17の詩をもとに、自分がどのように生きていきたいかを詩にして思いをまとめる。
4 完成した詩を教室に掲示し、作品を読み合う。	



## 話し合いや書くことを通して、自分の夢や人生について考える

### 6 授業の実際

(1) 話し合いを生かして、自分の考えを書いてまとめる。

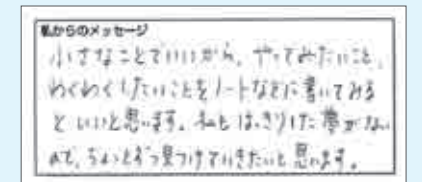
中学校用P.30にある「高校生の投書」を読んで、感想を述べ合う。その後、中学校用P.31にある「私からのメッセージ」に夢をもつにはどのようにしたらよいか、高校生への返事を書く。

■高校生の投書に対して小グループで感想を述べ合うことで、夢をもてない高校生に共感することや、どうしたら夢をもつことができるのか考えを深めることができた。この小グループでの話し合いで、投書への返事を書くベースができた。



小グループでの話し合い

■夢がもてない高校生に、どうしたら夢をもつことができるかという返事を書いた。これは投書への返事ではあるが、実は自分自身が夢をもつためにどうしたらよいかという自分へのメッセージになった。各自が話し合いをもとに、自分の夢について考えを深めることができた。



中学校用P.31

(2) 授業を生かして、自分の思いを詩に表す。

中学校用P.16～17にある「この人生の主人公」を読み話し合う。その後、自分の人生をどう生きていきたいか、「この人生の主人公」をもとに詩に表わす。

■「この人生の主人公」の詩を読み、心の声が聞こえる理由や胸を張って生きていくにはどうしたらよいかを話し合った。3年生は進路選択の時期でもあり、自分の人生を悔いのないよう生きていきたいという考えが多かった。

■「この人生の主人公」の詩を基に、自分の人生や夢、これからの生き方を詩に表した。詩から自分の人生に前向きに、真剣に向き合っていることがわかった。



中学校用P.16～17



生徒が書いた詩

# 1時間を通して活用する②

## 本場面におけるポイント

- **道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める**  
1時間を通して活用する教材として「心のノート」を生かし、ねらいとする道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方について深める。
- **体験を書き込んで、自分の生き方を振り返る**  
自分自身のものの見方、考え方、感じ方などを確かめたり、まとめたりすることで、自分を振り返ることができる。
- **話し合いで主体的な学びができる**  
子どもが友達の考え方について理解を深めたり、自分の考え方を明確にしたりすることができ、主体的に道徳的実践力を育む上で効果的である。



## ● 道徳的価値やそれに基づいた人間としての生き方が自覚できる生かし方 (3年)

- 1 主題名 感謝の心〔内容項目2-(6)〕
- 2 資料名 中学校用P.64～67「ありがたい心の贈り物に…」
- 3 ねらい  
互いに支え合って生きていることを自覚し、感謝の心を持ち、それにこたえていこうとする実践意欲を培う。
- 4 「心のノート」を生かす工夫  
◇ 中学校用P.67「あなたの生き方がそのこたえになっていく」を生かして、教師が発問し、ねらいとする道徳的価値の追求につなげる。  
◇ 子どもに本時のねらいに関わる体験を想起させ、感じたことや考えたことも含めて、中学校用P.67「あなたにはどんな『ありがとう』がありますか?」に記述させることで、自分自身の振り返りに役立てさせる。

## 5 展開の概要

学習活動の流れと主な発問など	留意点・「心のノート」の生かし方
1 中学校用P.64～67「ありがたい心の贈り物に…」を読み、感想を述べ合う。	◇ 板書に整理して、展開や終末における補助発問や話し合いで役立てる。
2 中学校用P.66の5通の手紙を読み、心に響いた手紙とその理由を発表する。	◇ ワークシートに記述し、ネームカードで意思表示させ、生活体験を思い起こさせる。
3 中学校用P.67「あなたの生き方がそのこたえになっていく」とは、どういうことを考え、話し合う。	◇ ワークシートに記述し、意図的な指名等により、交流させる。
4 中学校用P.67「あなたにはどんな『ありがとう』がありますか?」に記述し、自分自身を振り返り、考えをまとめる。	◇ 記述した内容を発表・交流し、相互に感想を述べ合わせ、余韻を残して学習を結ぶ。

## 表現し考えを深めるために工夫しながら活用する

### 6 授業の実際

(1) 自分の考えを深めさせるための話し合いの機会を充実させる。

中学校用P.67「あなたの生き方がそのこたえになっていく」とはどういうことを考え、話し合う。

- 話し合いは、話すことと聞くことが並行して行われる。2人1組の対話や小集団による話し合いなどで、子どもが主体的に考え、その考えを深められるような場面を設定した。
- 学習活動3では、グループで「あなたの生き方がそのこたえになっていく」について、自分と友達の意見は、どこが同じでどこが違うのかなどの視点を基に話し合わせ、子どもの考えを深めさせた。子ども自身の体験も出し合わせることを手掛かりに、ねらいとする道徳的価値に気づき、深く感じたり考えたりできるような話し合いの機会を充実させた。



(2) 自分の考えを書いたり、まとめたりする。

中学校用P.67「あなたにはどんな『ありがとう』がありますか?」に記述する。

- 書く活動を通して、自分自身のものの見方、考え方、感じ方などを確かめたり、まとめたり、記録に留めたりすることができる。また、それらを基に、今までの自分を振り返ることができる。
- 学習活動4では、「あなたにはどんな『ありがとう』がありますか?」について、自分自身と向き合わせ、自分の体験を想起させた。また、ねらいとする道徳的価値を追求するため、考えをまとめさせ、グループで交流させた。

